親子で取り組む、自然素材を使った ゼロ・エミッションプログラムの開発

日新カモミール　遠藤　正

1　はじめに

「日新カモミール」は、1994年に設立され、東京都府中市を中心に、主として土日に、自然体験・農業体験活動をしている社会教育団体である。

会員は、小学生とその保護者が多く、本会で育った子ども達が指導者にもなっている。

当初より食農教育に力を入れ、大豆を栽培して藁づと納豆や味噌を作ったり、春には地域の田畑で摘んだ野草を調理し、自然の恵みを味わっている。

今までも、蚕を飼育し、その繭を草木染してマフラーを編んだり、桑の枝の皮で和紙を漉いたり、桑の実でジャムを作る等、1つの素材が様々に活用され、できるだけ無駄を出さないという活動を実践してきたが、今回は、いろいろな自然素材に対象を広げ「ゼロ・エミッションプログラム」の開発に取り組んだ。特に、多摩丘陵に増殖して、対応に苦慮しているモウソウダケの活用を主とした。

2　実践内容

(1) 源（みなもと）ボックス作り

都会に住む子ども達は、近くに田畑がないので、毎日食べるお米やパンがどのようにできるのかを知らないことが多い。また、石油化学製品が大半を占める現代生活では、自然素材を識別する能力が低下している。

そこでまず自然素材を集める活動から始めた。栽培できるものは種蒔きから取り組んだ。そして採集したり収穫した自然素材を、各自が持ってきたお菓子箱に並べて「源ボックス」を作った。

[内容物]

イネ、コムギ、ダイズ、アズキ、アブラナ、ゴマ、ツバキの実、ソバ、ワタ、クワの枝、繭、モウソウダケ、ナンキンハゼの実、サトウキビなど。

(2) 搾油機を使って　しぼる

本奨励金で購入した搾油機を活用した。まず、ゴマ、アブラナ、ツバキを搾り、その油を調理や照明に使った。油かす等は、肥料にした。また、採集したナンキンハゼの実を搾り、少量ではあったが、蝋燭も作った。

(3) 和紙を作る

繊維のあるものであれば紙作りは可能であるが、いろいろな素材で作ってみた。特にサトウキビを搾ったカスで作る紙「バカス」は、まさに「ゼロ・エミッション活動」である。

(4)「編む」活動

学校田で米作りをしているので、毎年ワラをもらって「つと」を編み、栽培したダイズを入れて納豆を作っている。わら細工も上達してきたので今年は、学校の教育活動で実施された「わらじ作り」の指導を担当した。編み方が複雑で、こども達も苦労したが、何回かの活動で上達し、完成させることができた。嬉しそうに履き、大切に扱っている姿を見ると、手作りの効果の大きさを感じた。

(5) タケを使った「ゼロ・エミッション活動」

毎年恒例の「野草を食べる会」では、いろいろなタケノコ料理が作られる。

秋には、檜原村にキャンプに行くが、現地でモウソウダケを伐り、イカダを作って川に浮かばせ親子で遊ぶのが楽しみになっている。また、残ったタケをナイフで削り、箸やヘラなどの調理用具を作り、子ども達もタケという素材を活用することに慣れている。

今回、取り組もうとしたことが3点ある。1つめは、「竹炭作り」。これは以前にも雑木を材料として、砂場でドラム缶を使って炭焼きをしたことがあるので、容易にできた。燃料だけでなく学校のトイレの消臭にも使いたい。2つめは、「クマデ作り」である。毎年冬に学校周辺の落ち葉を集め、堆肥を作り、栽培活動に使っている。その時、高学年は自分で作った「Myクマデ」を使ったら、自然素材にもっと関心を持ち、より意欲的に取り組むのではないかと思ったからである。

クマデ作りは、本年2月に実施した。

竹林の竹を伐り、ナタで割っていく。「竹を割ったような」という言葉を体で学ぶことができる。

しかし、8等分にすることは、初心者には難しい技術であり、割ることと、割くことの違いを体験した。今年度は、6年生がクマデを作ることが決まったので、講習会に参加して技術を習得された方々に指導をお願いしたいと思っている。3つめは、「竹カゴ作り」である。石油化学製品出現する前の入れ物は、ほとんどが竹製品であり日常の生活でも一番役に立つので、ぜひ取り組みたかったが、竹工作も技術を継続的に高めていかなければとても無理な活動であることがわかった。今後の課題としたい。

3　実践のまとめ

「日新カモミール」を立ち上げて10年になる。「継続は力なり」というが、小学生の時に野鳥観察に参加して、それがきっかけで大学で野鳥を研究し、ときどき後輩に指導してくれる大学生がいる。また、地下足袋を買い、いきいきと農作業をする高校生もいる。

立ち上げた当時は、日新小の教員であった。しかし3年前に八王子市の学校に異動となり、現在本会の運営は、ほとんど地域の親で行っている。

運動クラブや吹奏楽など文科系のクラブで有名な学校が、指導者の異動で一気に衰退する事例を聞くと、地域に完全に移管でき、継続して活動している実践例は、学校週5日制が完全に実施され年間約45パーセントを家庭・地域で過ごす子ども達そして休日の過ごし方に関心をもっている保護者に対し、1つの方向を示す活動であると思う。

今回の奨励金で、搾油機とクマデ作りで使用する竹用ののこぎり、なたを購入した。製造元に直接注文したが、もの作りへの情熱、こだわりを伺うことができた。企業での「ゼロ・エミッション」では、先端技術が重要であるが、市民レベルでの「ゼロ・エミッション」では、昔の技と心が大切であると感じた。